

トム・ハンクス サンドラ・ブロック



EXTREMELY LOUD & INCREDIBLY CLOSE

最愛の父を失った悲しみから逃れられない少年オスカーは、父が遺した一本の鍵にメッセージが込められていると信じ、ニューヨーク中の鍵穴を探す旅に出る——

大切な人を失った悲しみ——誰にでもいつか必ず訪れるそのことに、人はあまりにも無防備だ。覚悟した別れでも受け入れがたいのに、ましてそれが突然で理不尽な別離だとしたら——。オスカーと父は、親子であると同時に親友だった。父は少しばかり繊細で生きることにも不器用なオスカーを、その個性を壊さずに導いてくれる頼もしい師でもあった。そんな二人を優しく見守る母。ところが——

9.11が最愛の父を奪ってしまう。オスカーは父が遺した一本の鍵に、最後のメッセージが込められていると信じ、鍵穴を探す旅に出る。鍵の入っていた封筒に書かれた文字に従い、ニューヨーク中の“ブラック氏”を訪ね歩くオスカー。やがて謎の老人が同行者となり、いつしかオスカーの辿った軌跡は、人と人をつなぐ大きく温かい輪になっていく。ついにオスカーは、鍵の真実とめぐり会ふのだが——。

アカデミー賞 受賞の輝々たるキャスト・スタッフ!

■キャスト■

トム・ハンクス(『フィラデルフィア』『フォレスト・ガンプ/一期一会』で2度アカデミー賞を獲得)、サンドラ・ブロック(『しあわせの隠れ場所』でアカデミー賞主演女優賞受賞)
トーマス・ホーン(本作で映画デビューを飾る天才少年)、マックス・フォン・シドー、ジェフリー・ライトほか

■スタッフ■

監督: スティーブン・ダルドリー(前3作の長編映画『リトル・ダンサー』『めぐりあう時間たち』『愛を読むひと』が、すべてアカデミー賞監督賞にノミネート)

脚本: エリック・ロス(『フォレスト・ガンプ/一期一会』でアカデミー賞受賞)

撮影: クリス・メンゲス(『キング・フィールド』でアカデミー賞受賞)、衣装: アン・ロス(『イングリッシュ・ペイシント』でアカデミー賞受賞)

原作: 『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』(NHK出版刊) 9.11文学の金字塔。世界的なベストセラーを記録した、ジョナサン・サフラン・フォアの小説。



「めぐりあう時間たち」「愛を読むひと」
「リトル・ダンサー」監督作品

ものすごく
うるさくて
ありえないほど
近 い

EXTREMELY LOUD
AND
INCREDIBLY CLOSE

トーマス・ホーン マックス・フォン・シドー バイオラ・デビス ジョン・グッドマン ジェフリー・ライト ソーイ・コールドウェル

あの日父を失くした少年の、喪失と再生のものがたり

ワーナー・ブラザーズ映画提供

スコット・ルーティン制作 スティーブン・ダルドリー作品 トム・ハンクス サンドラ・ブロック “EXTREMELY LOUD & INCREDIBLY CLOSE” トーマス・ホーン

マックス・フォン・シドー バイオラ・デビス ジョン・グッドマン ジェフリー・ライト 音楽アレクサンデル・デブラ 編集クレア・シンブソン 美術K.K. パレット

撮影クリス・メンゲス ジョナサン・サフラン・フォアの小説に基づく 製作総指揮セリア・コスタス マーク・ロイバル ノラスキナー 脚本エリック・ロス

製作スコット・ルーティン 監督スティーブン・ダルドリー

2.18

www.monoari.jp

WARNER BROS. PICTURES



2012年2月18日(土)
ロードショー!!



アカデミー賞[®]受賞俳優トム・ハンクス & サンドラ・ブロック 初共演!

ある日突然、愛する人を失った少年。

彼の喪失と再生のものがたりが、いま日本に希望を届ける——。

9.11で大好きな父を失った少年オスカー。
父親のクローゼットから謎の鍵を見つけたオスカーは、
鍵穴を探す旅に出る。
それが、父からの最後のメッセージだと信じて——。



2011年という忘れられない年を生きた日本人の心に、
いま最も深く突き刺さる映画が、ハリウッドから届けられた。

新しい年に頭を上げて前へ進もうとしている私たちを、力強く励ましてくれる、
まさに今見るべきタイムリーな傑作が完成した!

9.11アメリカ同時多発テロで最愛の父を失った少年オスカーは、
どうしても父の死を受け入れることができない。
父が遺した一本の鍵に最後のメッセージが込められていると信じたオスカーは、
鍵穴を探す旅に出る。

ついにオスカーは、鍵の真実とめぐり会うのだが——。

オスカーの父親に扮するのは、
スクリーンに現れた瞬間から人間味に溢れた演技で観る者を物語に引きこむトム・ハンクス。
夫を亡くした悲しみから立ち直れず、

息子とうまく接することができなくなる母親には、サンドラ・ブロック。
ハリウッドを代表する演技派の贅沢な初共演が実現した。

彼らを相手に、全く引けを取らない自然体の存在感で全米マスコミの話題をさらったのは、
オスカー役のトーマス・ホーン。

演技経験は小学校の寸劇だけという彼が、
アメリカの人気クイズ番組「ジェパディ!」に出演していたところを
プロデューサーに見出され、映画デビューを飾った。
父との絆を勇気に変えて、様々な試練をひとつひとつ乗り越えて行く姿は、
涙なくしては見られない。

—— 突然、最愛の人を失ったもの達は、
その悲しみをどう乗り越えてゆけば良いのか? ——
大切な人を失った少年の苦しみと再生を描くことで、
等しい悲しみを抱えた世界中の人々、
特に、2011年に同じような体験をした日本人に
勇気を与えるであろう感動巨編。

- ◆ 本年度アカデミー賞[®]最有力 (ロサンゼルス・タイムズ紙)
- ◆ 今年のオスカー[®]レースの話題をさらう作品 (ハリウッド・レポーター誌)
- ◆ いまアカデミー賞[®]に最も近い作品 (movies.com)

www.monoari.jp facebook ページはこちら www.facebook.com/monoari ワーナー・ブラザーズ映画配給